

指定管理者管理運営評価シート

別紙 2

令和元年度

1 施設の概要

指定管理施設名 (施設所管課)	稲美町立いなみ野水辺の里公園 (教育政策部 生涯学習課)
指定管理者	NPO 法人 環境ユースイングてんま 代表者氏名 小村 徹
指定管理期間	平成 31 年 4 月 1 日 ~ 令和 6 年 3 月 31 日
指定管理委託料	12,770,000 円 (令和元年度)

2 指定管理者による自己評価

評価項目	事業計画	実績	自己評価
運営状況	・開館日数・開館時間等	<ul style="list-style-type: none"> ・稲美町立いなみ野水辺の里公園の管理運営に関する規則第 2 条第 3 条を遵守した。 ・開館日数は 284 日(コロナ対策で通常より-23 日) ・閉館日数は 81 日 ・公園全体では開設以降初めての緊急事態閉鎖を 8 日間行った。 ・ホテルの一般公開のため 5/24~6/9 の延べ 17 日間は規則に従い閉園を 21 時まで延長した。(文書番号特環て第 31-4 号にて申請) ・新型コロナウイルス感染症予防のため行政通達に従い令和 2 年 3/5~3/12 は休園とし、3/13~3/31 (5 月末まで継続される) は休館とした。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常時は、毎月曜日休館で日数・時間とも問題なく適切であった。 ・新型コロナ緊急事態下で緊急的な閉園又は閉館の処置は適切であった。 ・看板及び掲示により利用者に対し、周知徹底することができた。 ・ホテルの一般公開時間延長も適切であった。 ・3/13 の再開園後は、コロナ対策を意識した家族連れの利用が多くあり、早めの屋外開放はよい決断であった。 ・臨時閉館中も毎日の生き物の世話や事務処理のため、通常勤務は継続した。
	・委託事業、自主事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・稲美町立いなみ野水辺の里公園指定管理者協定書並びに仕様書に従い本業務を実施した。具体的には下記事業を実施、参加者への支援指導を行った。 ・自然体験イベント・セミナーの実施 食育事業「我が家のお芋畑」 自然体験事業「バツタとり大会」「春の草花で染めよう！食べよう！」「そうめん流しとワイワイ夏祭り」「夏休みお助け工作(2回実施)」「子どもの日特別企画の「おりが 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東播磨管内の行政、他 NPO 団体と日常的に連携し協力体制を維持、強化することで事業運営の向上につながった。 ・従来から蓄積した経験と職員研修や資格取得などで得た幅広い知識で事業を推進することができた。 ・いずれのイベント、セミナーも応募人数を上回る申し込みがある。リピーターも多くアンケート結果の分析により、実績が大いに評価されていると考えている。 ・季節に応じた学習内容を検

		<p>みで鯉のぼりを作ってみよう』『その他』を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境学習の受け入れ(2回) 延べ78名 ・役場・他NPO法人等との連携協力事業を実施。 <p>【学習棟内の展示】</p> <p>①常設展示は、観察コーナー 調べるコーナー・遊ぶコーナー 生きもの展示があり、常に良好な状態を維持した。</p> <p>②季節展示は、6回の展示替えを行った。又、「巻紙」「子ども工房・木のおもちゃ」「切り絵」等協力者による展示も行った。</p> <p>【魚のおうち管理】</p> <p>水槽清掃、魚のエサやり、水温の管理等日常管理を一定時間実施した。又、休日にはボランティアの協力を得て魚の補充を行う等一定水準の維持管理を行った。</p> <p>【ちょうのおうち管理】</p> <p>ボランティアの協力にてギフチョウ、アサギマダラ、オムラサキを羽化させることができた。</p> <p>公園内でみられる蝶も一定量飼育した。又、ちょうのおうちで飼育しているニホンイシガメとクサガメの自然繁殖がみられた。</p> <p>【ホタル育成事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年(初年度)の大成功が一変、夏の暑さのため幼虫の生育が悪く幼虫の放流数も少なく、数匹の出現に留まった。毎日大勢の見学者が訪れ、1匹のホタルの見え隠れに一喜一憂した。 ・ホタルの指導者から幼虫飼育装置を譲り受け、次年度のための自家繁殖の飼育準備に取り掛かった。 ・アサギマダラを呼び込むための水路東面の一角にフジバカマを定植した。秋には多く開花し受け入れ体制は整 	<p>討、事前準備も怠りなく進め内容の充実した環境学習が実施できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内に留まらず出向いてのサービスは、他団体との協体制を維持するうえでも必要かつ重要なことである。 ・当施設にない文化的なものや伝統的な様々なものを展示することで、幅広く人々を呼び込み、多くの異分野の人々とも交流が増した。 ・展示では、おもちゃに人気集中している。生きもの展示や観察に目を向けるように工夫した。また、たくさんの本があるので子どもたちに興味をもってもらおう昆虫の質問には子どもたちが自分で調べられるよう指導している。 ・生きもの相手であり、手を抜くと悪化しやすいため、神経を使う管理である。 <p>また、同程度施設の見学などまだ、実現できていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蝶の生育には時季があるため年中の飛蝶は、困難であるがボランティアの協力で、卵から成虫までの観察ができるようになった。 ・1年目の大成功で気分が緩んだ訳ではないが、結果は結果として反省点を整理し、次へのステップとした。 ・アサギマダラの魅力に取りつかれたファンも多いので受け入れ体制を整えたい。気温
--	--	--	---

		<p>ったが暑さのため今年度は播磨地域全般の平野部への飛来がなかった。</p> <p>【兵庫大学とコラボ3年目】</p> <p>①「夏祭り」の企画・運営 学生28名参加</p> <p>②セミナー「我が家のお芋畑」のボランティア 夏祭りでは過去2年間の実績と反省を踏まえスタンプラリー、手作りビンゴゲーム、プラスバンド演奏等新企画や運営の効率化を図る等十分に活躍していただいた。</p>	<p>が落ち着けば必ず飛来するものと信じている。</p> <p>・近隣の教育機関とのコラボを継続することができた。公園最大のイベントの夏祭りは、人材不足となるがマンパワー的にも学生の新しい企画で、楽しさも大いに向上した。</p> <p>・地域にとっても当方にとっても有意義な協働であると思う。</p>
<p>・利用者の満足度</p>	<p>・利用者との直接会話やアンケート等から判断して不満は少ない。</p> <p>・すべてのイベント・セミナーで申込者が増加し続けている。(募集後即締め切りになる申し込みがある)</p> <p>・家族による昆虫採集、ザリガニなどの水生生物捕り、どんぐり拾いなどの自然遊びや団らんの場として多くの利用があった。</p> <p>・公園再開園直後には、待ちかねた様に家族でテントを張ったり、シートの上でコロナ対策をして楽しむ様子がありコロナ禍での外出の場所として大いに選ばれたと思う。</p>	<p>A</p>	<p>・園内でのイベント、セミナーは常に開発し続けてマンネリ化しないように工夫している。公園ならではの活かし、ニーズにあったものに積極的に取り組んでいる。</p> <p>・幼児の園内利用はほかの利用者の目にも微笑ましく、続けられるよう安全に確保したい。安全の確保については、保護者の意見も聞き対応した。</p> <p>・さらに当公園の知名度を高めたり、環境管理の良さ、イベントの楽しさ等あらゆるプラス要素を利用者の満足度に直結させ来園者の増加につなげたい。</p> <p>・2月～3月のコロナ対策は行政の指導のもと最優先で取り組んだ。長期戦に向け with コロナ、新しい運営方法を模索している。</p>
<p>・その他(特記事項)</p>	<p>【環境啓発事業】</p> <p>ため池ミュージアム事業に位置付けられた事業で、外来種駆除の一環として「夏祭り」に外来種展示コーナーを設け、専門講師からミシシippアカミミガメの生態説明及び解体の実演を行った。</p> <p>・トライやるウィークに於いて中学生4名を受け入れ、動植物の世話、看板作り、ベン</p>	<p>S</p>	<p>・ここ数年の取り組みに於いて、県民局、ため池協ミュージアム、町行政、NPO法人、専門講師等との連携が濃密になり、協働事業としての成果が表面化するに至ったと考える。</p> <p>・トライやるに参加した生徒が、事業終了後にもよく訪ねてくれ、交流を重ねたり、当</p>

		<p>子作り、芋植え、ビザ窯体験、公園管理など自然環境の大切さを指導した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加古福祉会館で4回目となる子育て支援事業に参画し、オタマジャクシ、小魚等の「生きものすくい」を出展した。 ・コスモス児童館との協働親子24組が参加して「親子のつどい」で藍染め体験を実施した。 ・NPO 法人ころあい自然楽校との協働 <p>16 家族が参加して藍染めを楽しんだ、又、14 家族が参加し木の実集め、クリスマスリース作りを楽しんだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加古川市の NPO 法人との連携で 5 年連続して福島県で被災した小学生 19 名を受け入れ、そうめん流し及びゲーム等を行い思い出に残る楽しい一日を提供した。 ・東播磨ビジョン委員会 <p>東播磨文化施設ネットワーク化事業に参画。今年度は稲美町の郷土資料館、万葉の森と当公園がビジョン委員の合同視察を受けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部での出展事業 <p>「虫展」(かこむ)に昆虫作品を展示した。(271 人)</p> <p>「森のハロウィンを作ろう」(グリーンモール別府)に当公園のニシキギで三角リース教室を行った(29 組)</p> <p>「全国フェア こどもひかりプロジェクト in 淡路」(淡路青少年交流の家)に2日間クリスマスグッズ教室を行った(1767 人)</p>	<p>公園のボランティア要員として地域で活躍してくれているのに誠に嬉しい。トライやるの一つの成果があると考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災した福島の子どもの受け入れは5年計画で協力し今年度が最終年度となるがそれなりの支援はできたと考えている、又、別の同様事業があれば積極的に協力したい。 ・これらの実績をベースとして活かしさらなる運営の上積みを図らなければならない。 ・共感できるほかの団体との交流により費用はかかるが得られるものも多く、当法人社員のキャリアユースと考えている。
<p>施設維持管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃 ・植栽等管理 ・警備 ・設備保守 ・修繕 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃及び警備は委託とし、連絡協議により円滑に管理できている。 ・警備会社の移管も連携により円滑に対応した。 ・植栽管理は直営式とし、季 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内整備は、セミナーに対応しながら計画的に、草刈りや枝の剪定を行った。 ・建物、橋、護岸などの構造物は、安全上重要であり、適宜点検を行った。

		<p>節に応じた花壇整備を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内の不必要な雑草除去は、必要に応じ社員により順次実施した。 ・保守修繕は、日常点検により早めの対応を実施した。 ・公園西側斜面の草刈管理は地元の営農者との共同作業とし、委託事業として実施した。 		<ul style="list-style-type: none"> ・エントランス花壇は、工夫したことで、来園者からも好評であった。 ・草刈などは、生き物の生育に考慮し、時季、範囲を明確にして実施した。 ・3/20 自販機破損事件後、緊急連絡体制を決め、当方も夜間対応可能にした。
	・その他（特記事項）	・観察池歩廊橋設置等改修にて、観察池の老朽化対策を実施していただいた。	A	・老朽化対応は応急処置を施しながら順次提案している。
利用状況	・利用者数	<p>46,390 人/年 （実働 300 日） （H31.3.5～12 を休園とカウントした場合の開園日数）</p>	A	・着実に毎年、家族連れ来の来園者が増加しているが、今年は 3 月のコロナ対策での減少、ホテル見学者の減少が影響している。
	・施設稼働率	155 人/日	A	・通常より平均 15 人/日減少
収支状況	・収支計画	・指定管理料と各種補助金やイベント・セミナーの参加費などの歳入に合う支出計画を実施した。	A	・毎月、予算管理を行い、収支状況を把握しており予算管理上の問題はない。
	・経費削減の取組み	・社員の特性を活かし、できることは社員で対応した。	A	・地域からの物資協力などもあり、効果的な削減ができた。
運営体制	・人員配置	・全ての運営事業並びに公園の維持管理に支障のないよう適切に人員配置した。 大きなイベント等社員で不足する範囲はボランティアの協力で対応した。	A	・通常は、できる限り 2 名以上の複数人配置を考えて、事務処理や来園者対応の体制をとった。但し、コロナ対応は可能な限り少人数とし社員の接触機会を減らすよう配慮した。・・・2 グループにての勤務対応。
	・危機管理体制	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯と景観共に留意して樹木の伐採を行った。 ・台風被害の折れ枝等は、速やかに除去し飛来しないように処置した。 ・スズメバチなどは、日常点検及び来園者情報により速やかに処置した。 除虫剤を常備し緊急処置に備えている。 ・新型コロナウイルス発生後は、行政の指導に従い社員及び来園者の安全を最重要視 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理体制の充実。災害を想定した点検と勤務対応を心がける。 ・来園者の安全を第一に考えた管理を徹底している。 ・当公園の社員、利用者から感染者が出ていないことを踏まえた対応を続けたい。

		した対策を行った。		
	・苦情要望等への対応	・利用者のアンケートで、スポーツ大会時には一般公園利用者が駐車できないと記述があった。(2件)	A	・スポーツ大会の主催者や責任者等に乗り合わせ来園をお願いしている。
	・個人情報の保護及び情報公開	コンプライアンスの事例による周知。情報公開への確認。	A	公園だよりやブログ、写真掲載などに対し、許諾を必須条件としている。
	・その他(特記事項)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常から地域と密接な交流を通じ、協働できる体制を維持した。 ・冬季に標本箱の消毒及び腐食した蝶の修復を行った。 ・昨年度臨時雇用した魚の飼育員が離職したことで、社員に若干の負担がかかっている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・サポーターによる標本の整備により貴重な標本が大分よみがえった。今後も冬季に継続する予定。 ・魚飼育に詳しい人を雇用したいと考えている。
			総合評価	<p>A</p> <p>各種団体との協働を活かし、充実した公園管理及び事業運営を実施した。</p> <p>今年度は、異常気象の影響を受け、ホタルの不調、アサギマダラの無飛来など異常な環境には勝てず、又、夏祭りも泥んこの中での開催で大変だった。一方、福島県の被災した子どもの受け入れを5年間やりとげたことや対外的に東播磨ビジョン委員会の稲美町視察受け入れ、全国こどもひかりプロジェクトに計画外の活動など柔軟な対応が出来、少しずつ発展していると感じている。</p>

3 施設所管課による一次評価

総合評価	A
------	---

ホテルの成育環境の整備・幼虫の育成などの取り組みや「夏祭り」や「我が家のお芋畑」などの兵庫大学とのコラボレーションイベントの開催など、積極的な事業を展開しており、今後も新たな利用者の開拓やリピーターの確保が期待できる。

施設の維持管理は協定書に基づき適正に行われており、季節ごとの講座を地域ボランティアやサポーターと準備を行うことにより、経費の削減、地域との協働が図れている。

外来種関連の展示や専門講師からミシシippアカミミガメの生態の説明のコーナーをイベントの際に作るなど環境に関する啓発事業も実施し、地域の環境教育の一旦を担っている。

令和元年度は、異常気象の影響を受け、うまくいかなかった事業もあったが、その経験を新たなイベントに活かしつつ、今後も水辺の里公園の名にふさわしい自然に親しむことのできる公園として、より多くの住民の憩いの場となるよう期待する。

4 内部検討委員会による評価

総合評価	A
------	---

管理運営については、協定書通りに行われていて適正である。

地域団体と連携したイベントや新規事業にも積極的に取り組んでおり評価できる。気象条件などによりホテル育成のイベントの開催に苦勞されたようであるが、新しい取り組みにより利用者の開拓に努めている点も評価できる。新型コロナウイルス感染症対策の徹底に努め、今後も来園者のニーズに応じた魅力的なイベントの開催により、さらなる利用者の増加に努められたい。

また、アンケートの結果から、利用者の高い満足度を得ており評価できる。今後も後継者を育成するなど引き続き持続可能な運営体制を確保されたい。

5 外部検討委員会による評価

総合評価	
------	--

--